

広報委員 の一言



10月の3連休の初日の10月11日に、新潟大学医学部昭和48年卒同級会が、新潟市内のホテルで開かれました。2年振りの同級会の幹事を外科グループが引き受けことになっていましたので、幹事団の一員として不慣れな仕事に関わることになりました。幹事が真っ先にするべき仕事は日時と場所を決めることがでしたが、毎回秋に新潟駅からあまり遠くないホテルを利用してきましたので、前例に従うことになりました。ホテルの予約は昨年の9月に早々と終えましたが、その後の準備作業は暫く休止となり、今年の4月になって重い腰をあげて、案内状の準備に取り掛かりました。

前回の幹事から詳しい引き継ぎを受けていましたので、それを参考にしながらパソコンに頼らない昔ながらのやり方で準備を進めてきました。まず学士会から同級生の最新の名簿を提供していただきました。私たちはいわゆる団塊の世代にあたり、1学年に113名が登録されていましたが、物故者が24名、住所不明者や退会者が8名もいました。残りの81名と特別会員などの2名に案内状と返信用の葉書を同封して、7月の初旬に郵送しました。およそ2か月に亘って返信がありましたが、出席が23名、欠席が48名で、未回答は12名でしたが、直前に急逝した同級生については、奥様から欠席のお知らせがありました。

同級会の当日は天候にも恵まれ、午後5時に受付が始まると懐かしい顔が次々と現れました。兵庫県や長野県、山形県、首都圏などからの参加もありましたが、新潟市内からの参加が突出していました。女性の参加は2名のみでしたが、錦上に花を添えてくれました。写真撮影の後で宴会になりましたが、物故者に黙とうを捧げてから乾杯となりました。しばらくしてからひとり3分間の予定で近況の報告がありましたが、すこぶる順調に進んで予定よりも早めに中締めとなりました。2次会の参加者は予定よりも少なくなりましたが、学生時代と変わらない親しい中にも充実した会話を楽しむことができました。当日になっての欠席者がひとりもいなかったことも幹事としてはうれしいことでした。

卒業してから52年が過ぎて全員が喜寿を迎える歳になり、健康上の理由で欠席する人が少なからずいましたが、一方では現役で頑張っている人や、第二の職場で活躍している人もおり、様々な人生模様がみられました。そうした中で2年後に予定されている最後の同級会に備えて、健康管理にはくれぐれも気を付けることを合言葉にして散会となりました。

(勝井 豊 記)

広報委員会委員：佐藤雄一郎・橋立英樹・勝井豊・高塚尚和・磯部賢諭・高野由美子・恩田晃・平塚素子・永井雅昭

新潟県医師会報・第908号〔令和7年11月〕

発行所 〒951-8581 新潟市中央区医学町通2-13 新潟県医師会
 TEL: 025-223-6381 FAX: 025-224-6103
 ホームページ: <http://www.niigata.med.or.jp> メール: kaihou@niigata.med.or.jp
 印刷所 〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 株式会社 DI Palette